

平成22年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471901429	事業の開始年月日	平成14年5月1日	
		指定年月日	平成20年5月1日	
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会			
事業所名	グループホーム こころ			
所在地	(〒237-0063) 神奈川県横須賀市追浜東町1丁目32番地			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	宿泊定員	名	
		定員計	8名	
自己評価作成日	平成22年11月18日	評価結果 市町村受理日	ユニット数	1ユニット
			平成24年5月28日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

穏やかで家庭的な雰囲気を大切にしている。 近隣の商店から良い食材を取り寄せ、手作りの食事が提供できるように心掛けています。また、メニューも豊富である。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成22年12月17日	評価機関 評価決定日	平成23年5月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】 この事業所は京浜急行線追浜駅から徒歩20分ほどの静かな住宅地にある。同法人の経営する2階建ビル「追浜ケアセンター」の2階に開設されており、追浜老人デイサービスセンターなどが併設されている。利用者は1階の追浜地域ボランティアセンターでカラオケを楽しむこともある。家族会は敬老会など行事に合わせて年4回開いており、意見や要望などを話せる場にもなっている。 【事業所理念】 「いつも笑顔でお手伝いいたします」を基に「尊厳を守ります、意志を尊重します、安心して日常生活を送っていただけるように」を理念として掲げている。職員は利用者への言葉掛けに気をつけ、優しく穏やかに接している。 【医療体制】 協力医の医師が月1回、利用者のかかりつけ医が2週に1回ホームを訪れて健康管理を行っている。訪問歯科医は、現在治療中の方がおり、月1~2回訪れている。管理者は看護師の資格も有しており、利用者、家族には安心感がある。 【地域との関係】 町内会に準会員として加入しており、お祭り際にはお神輿が立ち寄ってくれる。近隣のボランティアにより、散髪、折り紙、歌、散歩の同行などが行われている。避難訓練時には、地域の方が協力してくれている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム ころろ
ユニット名	

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を職員室に掲示し、引継ぎや職員会議時に確認している。〔いつも笑顔でお手伝いいたします〕 人としての尊厳を守ります。 個人としての意見を尊重します。 安心して日常生活を送っていただけるようにお手伝いをいたします。	理念には、「利用者の尊厳、意志の尊重、安心した生活」を掲げている。法人の理念を基に開所時に職員が話し合って作成した。職員会議などで理念について話し合っている。職員は利用者の出来る事は見守り、出来ないことをお手伝いするようにしている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っている。お祭りにはお神輿に寄ってもらい、ご祝儀を渡してもらっている。お祭りに行ってもいる。近隣のボランティアにより折り紙・歌・散歩・散髪等が行われている。	「追浜東町東会」町内会に準会員として加入している。お祭りの際にお神輿の見物をしている。近隣から散髪、折り紙、歌、散歩のボランティアを受け入れており、歌のボランティアが訪れる時には隣家の方が立ち寄って手伝ってくれる。地域の方が1名、避難訓練に協力してくれたり、中学生(2校)が事業所に福祉体験に訪れることもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会役員や民生委員の方の参加がある。町内であったことなども含めて話し合われている。社会福祉士や中学生の福祉体験学習の受け入れを行っている。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会、イベント、運営推進会議、感染対策、外部評価と情報公表制度について、火災訓練についてなど。また、利用者の状況や職員の動向等の報告。意見を伺って職員間でも共有している。	運営推進会議は4月、7月、9月、11月に行われ、今後は1月、3月を予定している。参加者は利用者、家族、地域代表、長寿社会課の市職員などである。会議では夜間想定火災訓練、医療連携体制加算、看取りなどについて意見交換を行った。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市認知症対応型共同生活介護連絡協議会や研修参加、生活福祉(生活保護)関係、介護保険更新時の認定調査立会い等を行っている。	横須賀市長寿社会課の担当職員に事業所の状況や方針を報告して連携を取っており、困った時は相談をしている。市が主催する研修会にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>取扱要領の整備。内外部の研修の受講。ケースによっては話し合いを行っている。言葉による拘束をしないように心掛けている。玄関の施錠：目の前が急な坂で交通量が多いため家族に説明して施錠中。</p>	<p>「施設における不適切なケアをなくすために」を資料として職員に配布し、身体拘束について勉強会を行った。利用者が外にでることを望む時は職員が同行している。玄関前は坂道であり、車の通りが多く安全確保の為にやむを得ず家族に了解を得て施錠している。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>内外部の研修の受講。引継ぎや職員会議でお互いに確認しあっている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>内外部の研修の受講。当施設の運営理念や倫理綱領、法人の運営理念を念頭に置いている。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>不安や疑問点についてその都度聞き、理解や納得がいくまで説明をする努力をしている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会や運営推進会議の開催を行うことで、いろいろな家族や外部者と係わるようにしている。また、いつでも話せる体制であることは家族会の度に話し、個別に話せる時間を設けている。</p>	<p>運営推進会議、家族会(年4回)時に家族の意見を聞くようにしている。要望などについて、今後アンケートを実施して確認する意向である。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は忘年会や新年会を開催したり、施設に訪問する機会があり職員と関わっている。管理者は職員会議やミーティング時に設けている。普段から聞ける体制はとるように心がけている。	管理者は、職員会議やミーティングのほか、個別に職員の意見を聞いている。また理事長、ケアセンター長にも意見を伝える機会がある。掃除の仕方やテーブル、フードプロセッサの購入などに職員の意見が反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与については定期的な昇給あり。介護職員処遇改善交付金が支給されている。資格取得への道が開けている。希望に沿った休みが取れるように配慮し、必要に応じた勤務体制が取れるようにしている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修の充実は図れている。職員会議等での勉強会も行っている。有料の研修についても参加できるように配慮している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市認知症対応型認知症連絡協議会、県認知症高齢者グループホーム協議会の研修参加ができています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前から自宅・入院先・入所先などに訪問等を行い、本人から話しを聞く。入所直後も1対1で話す機会を設けている。本人が十分な訴えができないときには、家族や関係者からも話を聞くようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とはいつでも話し合え、面談でき、問い合わせに対応できるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの話しを十分に聞き、必要としている支援を見極めるようにしている。ボランティアや介護タクシーなどの利用。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の意識の統一は職員会議や引継ぎで行っている。会話や時としてスキンシップを楽しんでいる。本人が大変ねという表現に対して「大家族だから…」という表現も職員はしている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子は安心できるような表現を選び話している。問題があった時には、家族と話し合っている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人、宗教関係者の方の来所も快く受け入れている。	知人が1~2カ月に1回ぐらい訪問する方がおり、利用者の居室で過ごしている時に、おやつを出すなどしている。米寿の食事会に家族と出かけた。ご主人の誕生日には自宅で過ごせるように支援をしている。利用者の様子を見て家族や友人に電話をする事もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の意見を尊重し、職員が間に入り声掛けや調整役をしている。全員で行うレクリエーションやイベントでも参加したくない方は個別に対応したり、時間を置いて再度誘う。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からも連絡があったり、事業所から家族の様子を聞いたりしている。2名の方がボランティアとして係わっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中の言動や態度・仕草・表情など気付きを記録する。朝夕の引継ぎで情報の共有をして、職員間で話し合い検討している。	思いや意向は、薬を塗る時やトイレ支援の時など、利用者職員が個別に対応するときに聞き取り、職員間で共有している。言葉での確認が困難な方は仕草や目を見て判断している。利用者に好きなTVの番組を見てもらったり、「帰りたい」という方には電話をして家族の声を聞いてもらうなどで対応している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、ケアマネジャーやサービス事業担当者等から情報収集を行っている。入所してからは、日常的な会話からも把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の生活の中から把握している。精神面では寄り添って話しながら状態把握することもある。客観的に見守りの中で把握し、職員間で共有するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>意向に沿えるように話し合い、反映させて介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画には、本人、家族の意見と訪問診療の医師の助言を反映している。計画作成担当者は看護師でもあるので、日頃のケアの中で状態に変化があった場合は随時見直ししている。定期的な見直しは本人の様子を観察し、個人記録などを確認して職員と話し合い、6ヶ月に1回見直ししている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケース記録に日々の様子を記録している。職員で共有する情報や介護については申し送りノートを活用しながら見直しをしている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>隣接する生活支援ハウスの入居者と関ったり、デイサービスのボランティアコーラスを聴きに行ったりする。今後も新たなニーズに対して、柔軟な対応ができるように取り組みたい。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>ボランティアの利用（散髪、折り紙、散歩、歌）、中学生の体験学習、歯科大生の研修を受け入れている。消防訓練参加については依頼中である。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している</p>	<p>法人内の湘南病院の内科医や自宅からのかかりつけ医の訪問診療を受けている。歯科の訪問診療を受けている。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医で受診することもできる。家族の対応で2名が眼科などに通院しており、受診結果は家族と共有している。かかりつけ医が2週に1回、協力医の医師が月1回訪問診療に訪れている。歯科医は歯周病の治療などで現在は月1～2回訪れている。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>管理者が看護師である。介護職員からの報告や相談は日々あり、利用者にとって必要と思われる受診や処置は受けられるように対応している。法人内の湘南病院の医師や看護師に相談できる体制である。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院から退院まで主治医・看護師長・看護師・医療相談・PTやOT等と連携を図り、面談やリハビリの状態の見学相談等を行っている。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>本人・家族・主治医と早い段階で話し合っている。事業所は職員間で話し合い方針を決め、本人・家族・主治医等と共有し検討している。また、終末期に向けて職員と家族で今後に向けて話し合っている。</p>	<p>重度化した場合などについて、事業所の方針を家族会で説明している。看取りを行うスペースがないこと、医療連携体制加算を取得していないことなどから看取りまでは行えないが、出来る限りの努力をしていく意向である。現時点では常時医療を必要とする状態になるまでは、事業所として支援する方針である。7月に看取り直前までケアした経験がある。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>普通救命講習会に参加するように推進している。入居者の状態や状況に応じて対応している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災避難訓練を年2回行っている。11月29日に夜間想定避難訓練を隣の施設と（生活支援ハウス）行う。近隣のマンションの住人には事前相談中である。</p>	<p>年2回、消防署の立会いで、3月と11月に避難訓練を行っている。11月の訓練は夜間想定したものである。近隣のマンションの住人が1名参加して協力してくれた。災害に備えて水、米、缶詰など3日分を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき（人としての尊厳、個人の意思の尊重等）笑顔で穏やかな言葉掛けをするように心掛けている。	接遇について研修を行っている。管理者は「馴れ馴れしい言葉を使わない」「語尾を柔らかくする」など言葉掛けや目線について職員に話をしている。また、落ち着いた時は、利用者と目線の高さを合わせて接するようにしている。個人情報を含む書類は事務所内の棚に保管している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が大事にされていることや物・考え方について尊重し、無理強いしない。職員が寄り添って対応して、自己決定が出来るように努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や内容、休息、就寝時間や起床時間、おやつ内容や時間、入浴回数や時間や曜日、レクリエーションなど希望に添えるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各居室の洗面に鏡を取り付けているので、自分の身だしなみをしていただけるようになっている。また、鏡が届かない方は置き鏡を置いている。自分で十分に出来ない方は、出来ないところを支援している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器・箸・湯のみは本人のものを使用している。もやしのひげ取り等や食器を下げたり、食器洗い、食器拭きなど状況に応じて一緒に行っている。職員や入居者同士の会話も弾んでいる。	訪問時には利用者が下膳をしていた。りんごの皮むきなどおやつ作りに参加することもある。パンが好きな方には週5日、朝食をパンにしている。利用者と職員は同席し、楽しく同じ食事をしていた。行事や誕生日会では利用者の好みのものを提供している。お寿司などの要望が多く外食にも出かけている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>メニューが作成され、全体のバランスは摂れている。状態に応じて形体を変えたり等工夫している。むせ込みある方の「トロミ」の使用。主治医との連携で塩分調整したりしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後の口腔ケアを行っている。自立している方、見守りや声掛けの方、ブラッシング介助の方とそれぞれの状態に応じて対応している。就寝時は出来る限り義歯を預かり、職員が磨いて洗浄剤につけて早朝に返却している。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>排泄時間や状況を記録し、一人ひとりのパターンを把握している。トイレに行きたくない方は声掛けや時間をずらしたり、別の職員が対応し工夫している。</p>	<p>排泄パターンを把握してトイレ誘導し、自立の方(3名)には見守りをしている。原則としてトイレで排泄するように支援しており、夜間のみポータブルトイレを利用している方が2名いる。リハビリパンツやバットで対応している。利用者が使いやすいように便座の高さが低くなっているトイレもある。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>食事に野菜を多く摂ってもらえる工夫をしている。水分量のチェックやコーヒーやジュースなど変化をつけている。体操や朝掃除の紙モップ拭き等動いてもらえる工夫をしている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴は週2回。介助の程度や体調等で時間帯を決めたり、日にちの変更をしている。入浴を嫌がる方は曜日や時間帯や声を掛ける職員を変えたりと工夫をして対応している。</p>	<p>入浴は基本的には週2回だが、夏季は状態、状況に合わせて清拭などを行っている。冬季は寒さを感じさせないようにマットの敷き方に配慮をしている。お湯は一人ひとり取り替えて清潔にしており、季節のゆず湯などを楽しむこともある。</p>	<p>利用者の状況に応じて清拭を行うなど柔軟な対応を行っている。今後さらに、希望に応じて週2回以上でも入浴できるような対応を望みたい。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>本人の希望に添えるように対応している。遅い起床や昼寝をしたり、就寝も様子をみながら消灯時間を過ぎてからする事も多い。職員とテレビを観たり、お茶を飲んだり、話しをしたりしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>1人ひとりの調剤明細書を保管し、いつでも見れるようにしている。新たな薬は目的・副作用等を職員で共有している。介助の程度によって服薬の支援方法を工夫している。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>ボランティアの活用（散歩・散髪・折り紙・歌・コーラス鑑賞）、外出イベントの工夫や外食。職員との散歩やカラオケ・体操などを行っている。食事は嫌いなもの好きなものに変えたりしている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気の良い日には散歩し、ボランティアによる散歩も取り入れている。初詣、神社や仏閣の見学、花見、食事会を行っているが、個々の希望や状態に合わせて対応している。</p>	<p>週1回、全員で散歩をしている。散歩を好まない方は1階にあるカラオケを楽しんでいる。週2回、散歩のボランティアが来て利用者と散歩をしている。テラスや玄関そばの椅子で外気浴やお茶のみをしている。花見に出かけたり、車椅子を車に乗せて横須賀菖蒲園などに出かけたことがある。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金の入った財布を持っている方は1名。出掛けるからお金が必要であると必ず持っていられるが、実際には使うことをされない。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいという希望があれば掛けている。また、家族から電話があれば本人と話してもらうようにしている。葉書も送るようにしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大型テレビと椅子があり、畳の部分や廊下にソファがある。台所と食堂と一緒にテーブルと椅子がある。思い思いの場所で過ごしている。周囲の壁には折り紙や行事の写真を掲示している。	居間には季節のクリスマスツリーや折り紙ボランティアの方と一緒に作ったサンタクロースなどが飾られていた。また、中ほどには畳のスペースがあり、自由に過ごせる。訪問時、利用者は、そこで洗濯物をたたんでいた。食堂には天窓があり明るく、窓から季節の移ろいが感じられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間に椅子があり、畳の部分や廊下にソファがあり好きな場所で過ごしている。入居者同士で部屋の訪問をして談話されている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたり、気に入っている家具類や寝具・テレビ・置物や小物類を本人や家族と相談しながら持ち込み、生活習慣に合わせて配置するように工夫している。	和室6室、洋室2室があり各居室には洗面台、ベッド、キャビネットなどが備え付けられている。馴染みの茶だんす、TV、ぬいぐるみ、写真などを持ち込みその人らしい部屋になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部分はフラットでフローリング。居室の上り口や廊下は手摺りを設置。各居室には鏡と洗面台がある。居室の入り口は引き戸で内側から鍵が掛けられる。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホームこここ

作成日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	45	週2回の入浴と利用者の状況に応じて消拭を行っているが、それ以上の入浴を希望される場合は対応できていない。	身体状況等により、利用者の入浴回数を増やす必要がある場合には対応していく。	ケア会議で、週2回以上の入浴回数が必要な利用者について、入浴日及び入浴時間等を検討する。	2ヵ月
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。